

城と史蹟を歩く会 平成13年後半のスケジュール



第5回 9月8日(土曜日) 浜離宮から水上バスで浅草へ  
 往路=八幡宿駅8時10分乗車、蘇我京葉線快速8時29分乗換(座れます)、東京駅乗換、新橋駅。復路=都営浅草線浅草駅、京成高砂乗換、京成津田沼乗換、京成千葉乗換、JR千葉駅、八幡宿駅着18時ころ  
 主要コース=旧汐留駅大名屋敷跡(遠望)、浜離宮(65才以上無料、一般300円、団体240円)、水上バス(団体560円)で浅草に移動、浅草寺、待乳山、今戸神社、隅田公園、桜橋、向島、言問橋(天候により桜橋以下を省略)  
 みどころ=浜離宮は將軍家別荘、江戸城外郭、鳥羽伏見の戦いに敗れた徳川慶喜が海路大阪城を脱出、將軍お上りの場も。水上バスで隅田川を上り、午後は浅草周辺を散策する。  
 雨天予備日=9月11日(火曜日)

第6回 10月9日(火曜日) 四谷、赤坂、江戸城外濠を歩く  
 往路=八幡宿駅8時10分乗車、蘇我京葉線快速8時41分乗換(座れます)、東京駅乗換、四谷駅。復路=有楽町線桜田門、東西線飯田橋乗換、JR西船橋乗換、千葉乗換、八幡宿駅着18時ころ  
 主要コース=迎賓館前(紀伊下屋敷跡)、四谷見附跡、食違見附、清水谷公園(昼食)、赤坂見附跡、溜池跡、日枝神社、星が岡城跡、国会議事堂、憲政記念館、加藤清正邸跡  
 みどころ=紀伊邸跡に建てられた赤坂離宮が迎賓館に。外濠の土塁を巡りながら四谷、食違赤坂と3つの見附と中世江戸出城をめぐる。  
 雨天予備日=10月16日(火曜日)

第7回 11月10日(土曜日) 鎌倉に北条時宗を歩く  
 往路=八幡宿駅7時13分乗車、千葉総武快速乗換⑦番線7時34分乗換、鎌倉駅。復路=北鎌倉駅16時45分内房直通快速乗車、八幡宿駅18時45分着  
 主要コース=まず買物、若宮大路、宇津宮御所跡、日蓮辻説法跡、腹切やぐら、宝戒寺北条執権邸跡、鶴岡八幡宮(昼食)、葉王寺、亀ヶ谷切通し、東慶寺(拝観料100円)、円覚寺(200円+100円)  
 みどころ=まずおみやげの鳩サブレを確保。幕府政庁御所跡、執権邸跡、時宗夫妻の墓、鶴岡八幡宮、日蓮辻説法跡などNHK大河ドラマゆかり地を歩く。  
 雨天予備日=11月18日(日曜日)

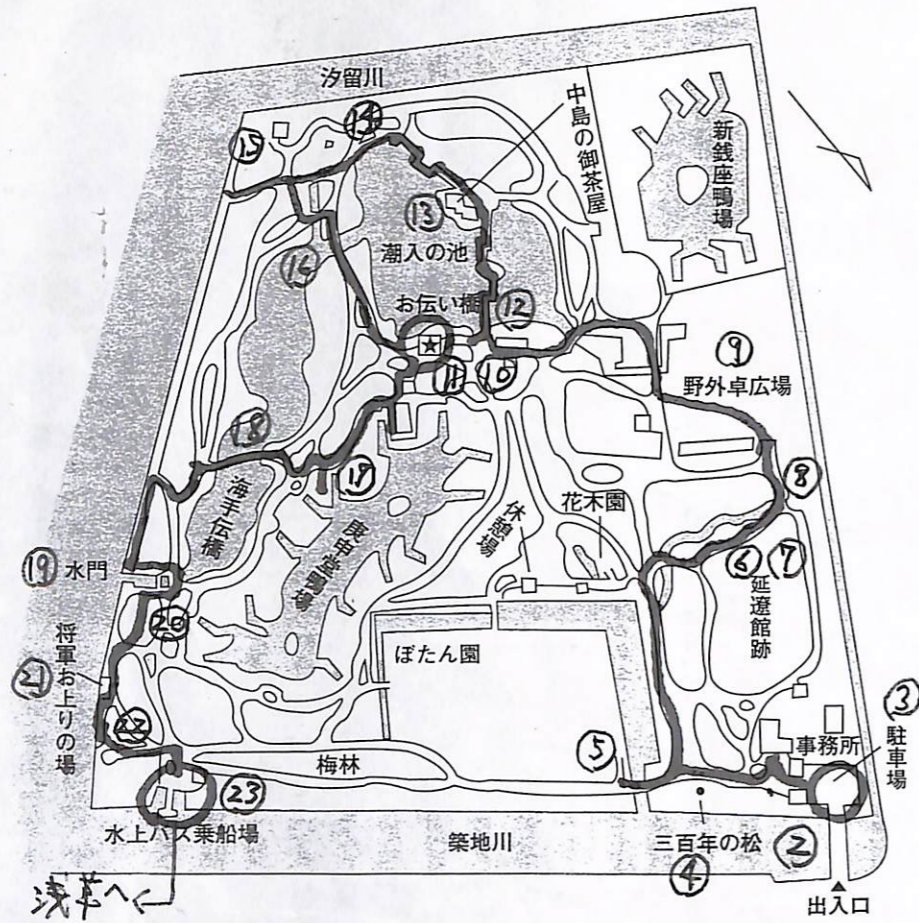
第8回 12月6日(木曜日) 湯島、本郷を歩く  
 往路=八幡宿駅8時10分乗車、蘇我京葉線快速8時41分乗換(座れます)、東京駅乗換、御徒町駅。復路=御茶の水駅、東京駅京葉線快速乗換、八幡宿駅着18時ころ  
 主要コース=湯島天神、りん祥院、東大加賀前田家赤門、三四郎池(昼食)、神田明神、湯島聖堂、御茶の水跡、大久保彦左衛門邸跡、ニコライ堂  
 みどころ=りん祥院は春日局の寺、前田家赤門は將軍家斉の娘溶姫の御守殿門。三四郎池で昼食。神田明神、湯島聖堂など本郷、湯島、御茶の水の史蹟を楽しむ。  
 雨天予備日=12月11日(火曜日)

第9回予告 平成14年1月2日(水曜日) 皇居一般参賀と初詣 詳細は次号に掲載  
 各回とも下見により一部コース内容を変更することがあります

城と史蹟を歩く会 市原市八幡北町2-12-12-501 ☎290-0069  
 (ご案内と問い合わせ) 山岸弘明 電話0436-42-2237(午前希望)

- 1) 趣旨=城と史蹟を楽しみながら歩くこと
- 2) 行動範囲=都内、県内などおむね片道1000円圏内またはホリデーバス圏内
- 3) 開催日=平日を中心に土、日曜日
- 4) 資格=通常程度歩けること。会員は原則として毎回参加
- 5) 入会金=なし。参加費=各回500円、交通費自己負担、弁当持参
- 6) 会員数=5月現在25名。参加者数=1回だけの参加含め毎回20~30名
- 7) これまでの実績=平成13年1月結成、2月顔合わせと講演「葵徳川3代と江戸城」、3月「江戸城西の丸と日比谷、有楽町」、4月「上野講演周辺、寛永寺、谷中」、5月「江戸城皇居東御苑」、6月「江戸城裏側」
- 8) 会員募集中。1回だけの参加もできます

以上



■京の雅をただよわす将軍家の庭  
はまりきゅうおんしていえん  
**浜離宮恩賜庭園**

名称 東京都立浜離宮恩賜庭園  
所在地 東京都中央区浜離宮庭園1番1号  
電話 03-3541-0200  
交通 JR及び地下鉄新橋駅(出口2、A3)  
より徒歩15分、水上バス竹芝~浅草  
入園 9時~16時30分、月曜日(祝日の場合は翌日)  
と年末年始休園  
入園料 300円(小学生以下・65歳以上は無料)  
観賞時間 60~90分  
面積 250,165m<sup>2</sup>(東京ドームの5.3倍)  
施設 正門前に無料駐車場(約50台)、休憩所  
集会場(中島の御茶屋・芳梅亭)、売店

◆ワンポイント案内

江戸初期の大名庭園。四代将軍の弟松平綱重とその子の六代将軍徳川家宣によって築造された。将軍家の庭園であったが、明治維新後、皇室領となり浜離宮と改められた。北庭が明治時代の庭園、南庭が潮入りの池泉回遊式庭園で、現在、都内では唯一の海水の池となっている。  
国の特別名勝と特別史跡に指定されている。



浜離宮  
日の出橋経由  
浅草

隅田川ライン



浅草寺  
解散地

浅草寺  
解散後  
集合地

浅草寺ととも周辺

帰り乗車駅  
都営浅草線  
浅草駅

後半  
スタート  
水上バス発着場

城と史蹟を歩く会第5回「浜離宮から水上バスで浅草へ」ご案内資料

<日時> 平成13年9月8日(土曜日) 10時00分~16時30分ころ

<主要行程> 八幡宿駅8時10分乗車 — 蘇我駅8時29分(京葉線マリンドリーム)東京駅  
— 新橋駅 — 旧汐留駅 — 浜離宮 — 水上バス12時15分乗船 —  
浅草 — 浅草寺 — 都営浅草線浅草駅 — 京成青砥駅 — 京成津田沼 —  
京成千葉 — 八幡宿駅着18時00分ころ

山岸弘明

1) 今年が開設400年=旧東海道(第1京浜)

- ①東海道=慶長9年、江戸-京都間に東海道53宿を定めて道中奉行の管理下におく  
お江戸日本橋7つ(午前4時)立ち。新橋早暁通過、最初の宿場品川(2里)めざす
- ②参勤交代の大名行列、伊勢参り……。松尾芭蕉が大阪へ最後の旅立ち、安藤広重絵筆の旅  
慶応4年、無血開城された江戸をめざす明治天皇の輿がすすむ

2) 赤穂浪士が休息=引き上げの脇道、仙台伊達邸跡

- ①元禄15年12月15日早暁。めでたく仇討ち本懐をとげた大石内蔵助以下赤穂浪士46名が高輪の泉岳寺をめざす。引き上げルートは両国から隅田川縁を下り、永代橋をわたって海沿いの脇道をすすむ。この後、金杉橋から東海道へ。吉田忠左衛門ら2名が虎の門の大目付・仙石伯耆守邸自首のため難脱。大石の緻密な計画ぶりが窺える
- ③仙台伊達綱村邸で休息  
不審な様相の一行は登城準備中の伊達藩邸で呼びとめられた。この次第の報告を受けた綱村は一同を邸内に招き入れ、仙台名産の道明寺ホシイと仙台味噌を振る舞う。以後仙台藩では「寝ずの釜」と称して終日釜の湯を切らずことはなかった

3) 汽笛一声、蒸気機関車がひたはしる=旧新橋(汐留貨物)駅

- ①明治5年9月、新政府は文明開化の象徴として新橋-横浜間に鉄道を敷設  
轟音を立ててひた走る蒸気機関車が見物人を驚かせた  
新橋-横浜間53分、上等1円12銭、中等75銭、下等37銭(米1升4銭)
- ②大正3年、新新橋駅移転後、貨物専用汐留駅となるが昭和62年廃止

4) 高層ビル化もまじか=脇坂、伊達、松平大名屋敷発掘現場跡

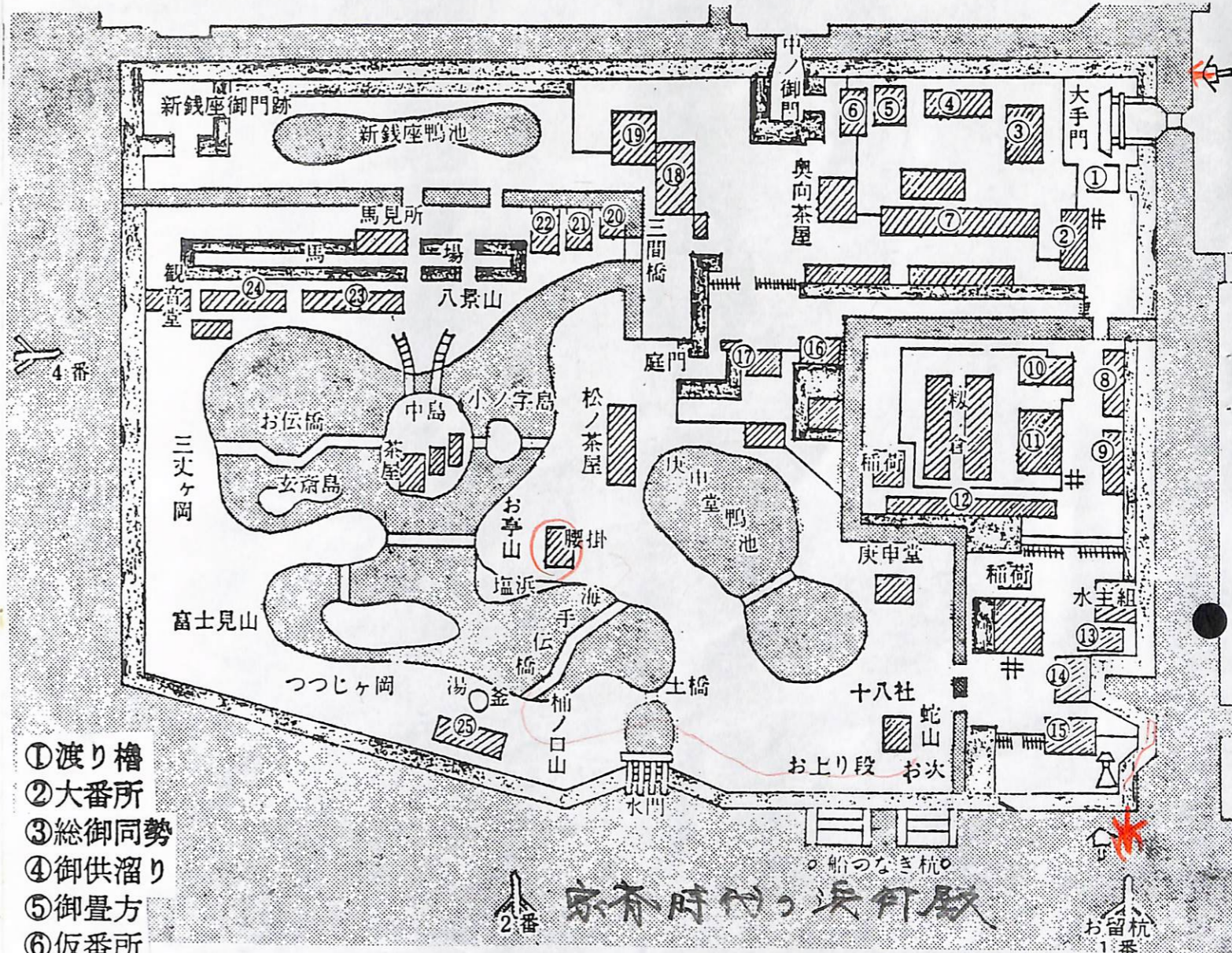
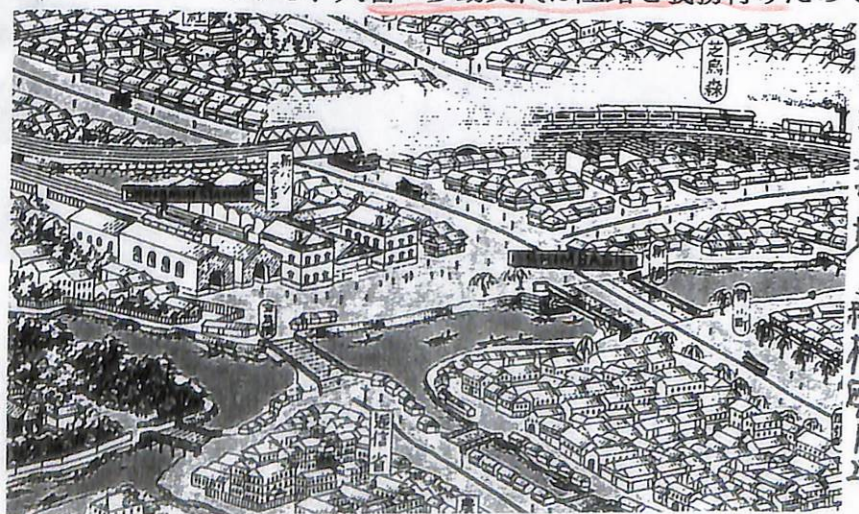
- ①龍野5万1千石 脇坂淡路守上屋敷 当時8,255坪  
仙台62万5千石 伊達陸奥守上屋敷 当時25,819坪  
会津23万石 松平保科肥後守中屋敷 当時29,492坪  
蕪山代官 江川太郎左衛門邸 当時7,00坪  
江川太郎左衛門組与力同心大小砲習練場 当時9,217坪
- ②平成4年から旧汐留貨物駅跡地内遺跡調査、完了?
- ③汐留新都市空間。高層ビル街誕生もまじか。浜離宮へも便利に

5) 交差点名と橋柱を残す=新橋(遠望)

- ①旧東海道、お堀(築地川)にかかった橋。慶長9年?架橋、擬宝珠つき格式高い橋。一時芝口橋とされるが明治維新後旧名に戻った
- ②戦後、濠を埋め立て高速道路に。高速脇に橋柱。新橋交差点は旧新橋と少しずれる

6) 江戸は水運の町=お堀跡(海岸通り、高速環状線)

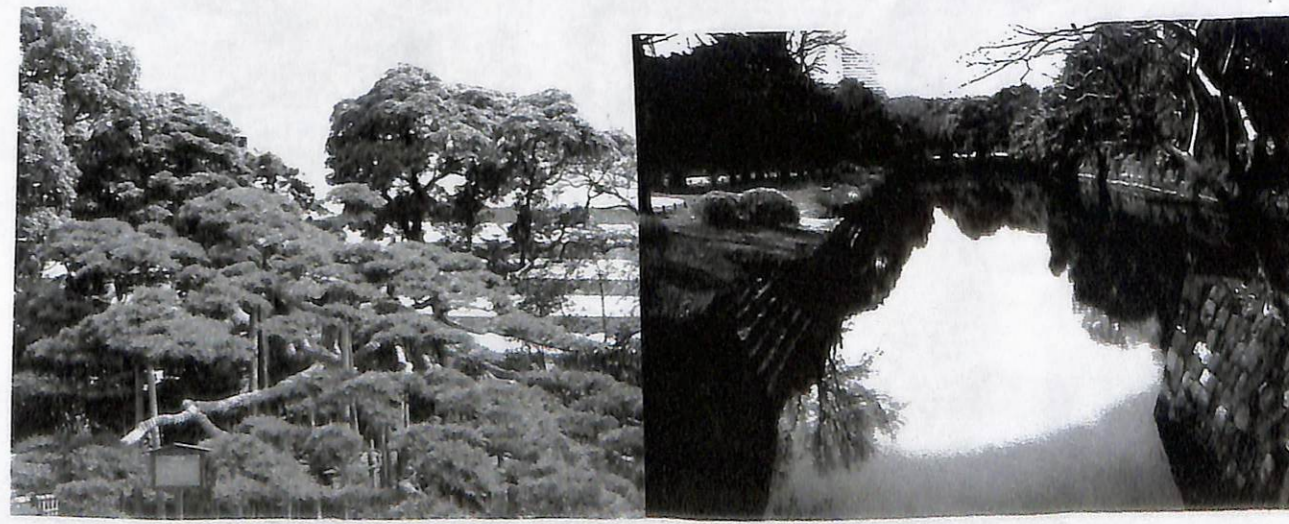
- ①外堀の土橋と浜御殿隅田川河口を結ぶ通称お堀(築地川)
- ②江戸は水運の町。米穀などの荷駄は江戸湾から複雑に通じた水路で輸送された  
しかし、大名の参勤交代は陸路を義務付けたので全国の街道網が発達した



- ① 渡り櫓
- ② 大番所
- ③ 総御同勢
- ④ 御供溜り
- ⑤ 御畳方
- ⑥ 仮番所
- ⑦ 御掃除者長屋
- ⑧ 東御所
- ⑨ 北長屋
- ⑩ 小普請方
- ⑪ 小普請方役所
- ⑫ 御蔵代長屋
- ⑬ 番所
- ⑭ 御船蔵
- ⑮ 船番所
- ⑯ 馬見場
- ⑰ 御庭役所
- ⑱ 御殿奉行役宅
- ⑲ 南御長屋
- ⑳ 番所
- ㉑ 御鷹方
- ㉒ 御用所
- ㉓ 御膳所
- ㉔ 奥向休息所
- ㉕ 海手茶屋



↑ 大手門高の内(左)と渡り櫓(右) ↓ 3百年の松 ↓ 内堀

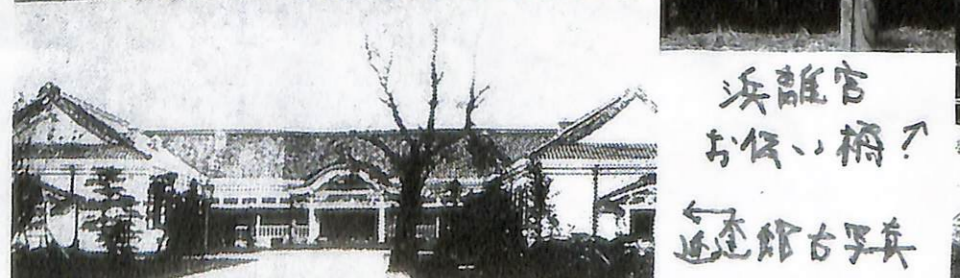
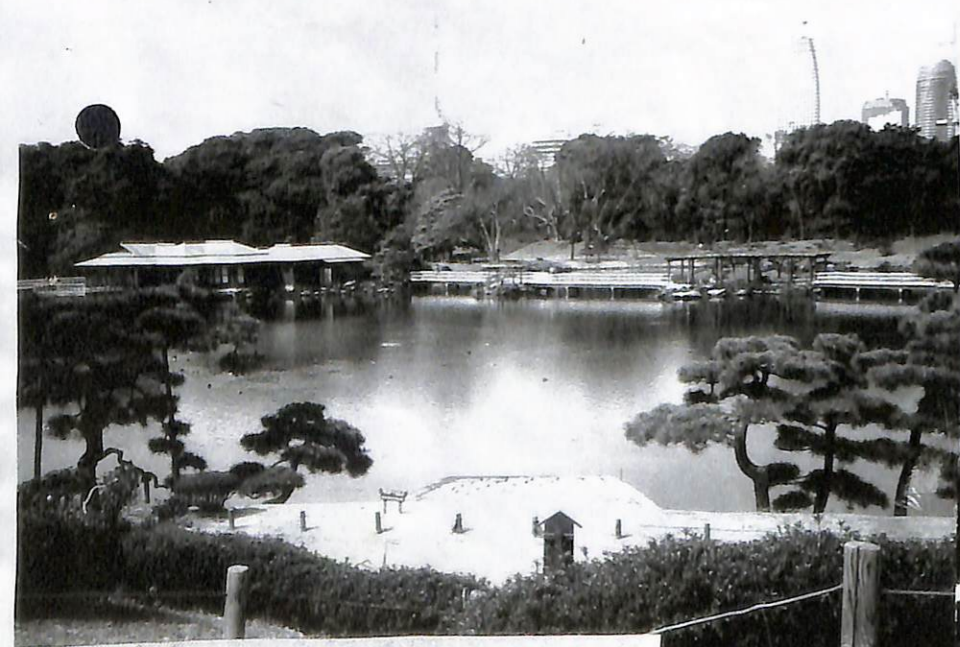
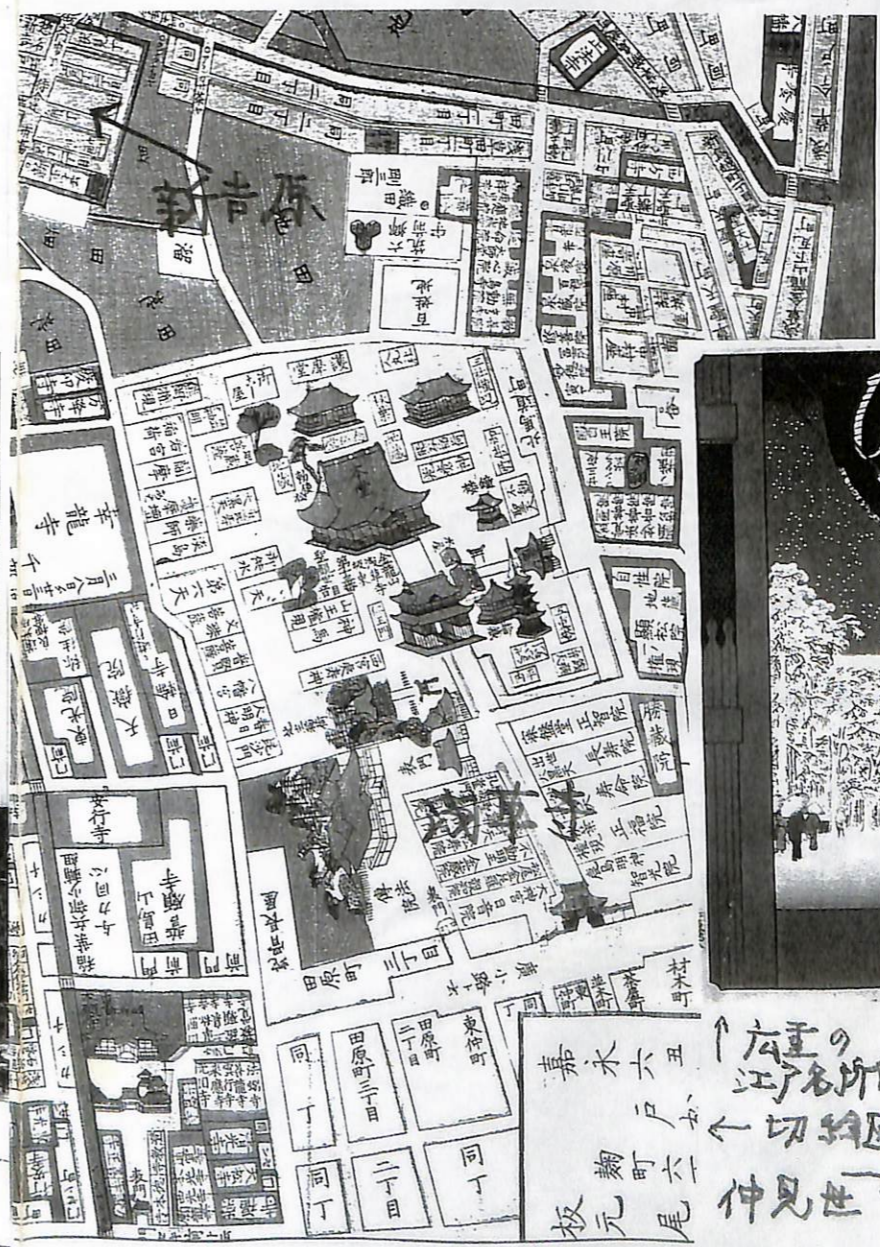


7) 江戸城の外郭で将軍家別荘=浜離宮恩賜庭園 (300円、65才以上無料=途中で昼食)

- ① 3代将軍家光の2男で4代家綱の弟、5代綱吉の兄・甲府宰相綱重が海浜蘆、葦しげる鷹場を下屋敷として拝領。嫡男でのちの6代将軍家宣が綱吉の御成りに備えて大改造、将軍家別荘、浜御殿とした。明治維新後、皇室の浜離宮とされたが、昭和20年東京都に下賜、一般開放された。
  - ② 濠と石垣=江戸城の外郭。3面を濠(川)、1面を江戸湾(隅田川河口)に囲まれた要害。濠の石垣を観察。切込みハギ=精密に加工して積み上げる。寛永以降の石積技術
  - ③ 大手門跡=城正門の意味。橋台、木橋、高麗門、内枳形左折れ、渡櫓門、番所、大番所。高麗門と渡櫓門は関東大震災で焼失、木橋はコンクリート橋に。井戸=水質悪く、上水道敷設?
  - ④ 3百年の松=家宣の大改造時に植樹。都内最大級。太い幹が前方に張出し歴史の重みを感じる
  - ⑤ お蔵道橋、船門、内堀(荷揚げ場)、蔵地=内堀の中は蔵地。下屋敷は蔵屋敷を兼ねること多い
  - ⑥ 延遠館(迎賓館)跡=明治2年建築のわが国最初の洋式石造建築。本館433坪。米国グランド将軍、英国王子など賓客をもてなす。鹿鳴館の竣工で廃止、明治22年撤去
  - ⑦ 御殿跡=綱吉を迎えた御成御殿が浜御殿に。享保9年焼失後再建なし。地形から推定できる
  - ⑧ 中の御門、浜御殿奉行役宅跡=通用門。枳形石垣一部を残す。奉行は管理責任者200石高
  - ⑨ 屋外卓広場=8代将軍吉宗は鍛冶、大砲所、製糖、製塩、サトウキビ、葉草園に
  - ⑩ 回遊式潮入り築山泉庭園=潮入りは池に海水を引くこと。江戸湾、隅田川沿いの大名屋敷庭園に多い。唯一の現存。築山を強調。池泉回遊式庭園と微妙に異なる。ともに見所は池。潮の干満でおきる2mほどの水位変化が美しさ増大
  - ⑪ 松の茶屋跡=茶屋は大名庭園園遊のための接待休憩所。茶屋礎石。ここからの池泉ながめ抜群
  - ⑫ お伝い橋、小の字島=池周りとくに三間橋と周辺樹冠、中の橋などに注目
  - ⑬ 中島の茶屋=宝永4年建造、復元。浜御殿中心の茶屋。将軍をはじめ多くの賓客を迎えた。御殿焼失後の代理御殿でも。門や飛石、垣根は京都雅びの雰囲気。最盛期11代将軍家斉は御成り20回。御台所篤姫も大勢の奥女中を引き連れて浜御殿に遊んだ(供の日記)。釣りの船着き場
  - ⑭ 富士見山
  - ⑮ 砲台跡=13代将軍家定時代。ペリー来航で内外が緊迫。江戸沿岸警備のため24斤カノン砲5門、ホウオイツル砲を設置、高松藩と幕府鉄砲方が部署を固める。慶応2年浜御殿を廃止、海軍所に
  - ⑯ 横堀と中の橋、御亭(おちん)山
- 松の茶屋、売店周辺で昼食 およそ45分間休憩、時分集合
- ⑰ 庚申堂鴨場、のぞき=10代将軍家治が新銭座鴨場、家斉が庚申堂鴨場を構築。鷹に鴨を捕らせる簡易鷹狩。皇室の鴨漁は餌で誘って網で捕獲。大のぞき、小のぞきで雰囲気味わう
  - ⑱ 横堀海手伝い橋
  - ⑲ 水門=海水の取り入れ口。現在は増水しないよう調節
  - ⑳ 新樋の口山=隅田川河口から東京湾を遠望。レインボーブリッジ、臨海副都心が美しい
  - ㉑ 将軍上がり場=将軍の専用船着き場。政局混迷がつづく幕末、政治の舞台は江戸から京大阪へ。14代将軍家茂は3回上洛、慶応2年、第2次長州征伐、大阪城で急逝。棺の中無言の帰還。15代将軍慶喜は鳥羽伏見の戦いに敗れて、海路大阪を脱出。消沈の上陸。江戸無血開城へ
  - ㉒ 燈台跡=11代将軍家斉が構築
  - ㉓ 水上バス発着場=船たまり跡

8) のんびりゆっくり水上バスの旅=隅田川ライン (12時15分または50分発、所用時間50分、団体560円)

- ① いったん日の出棧橋経由。レインボーブリッジ、臨海副都心をまじかにみながら浅草めざす。勝鬃橋-永代橋-隅田川大橋-清洲橋-蔵前橋-厩橋-駒形橋-吾妻橋など12橋。川風を受けながら移りゆく風景を眺めるだけで楽しい。船内放送のご案内に耳を傾けてください
- ② 明治31年、浅草~両国間を結ぶ蒸気汽船がはじまり。昭和25年水上バスに



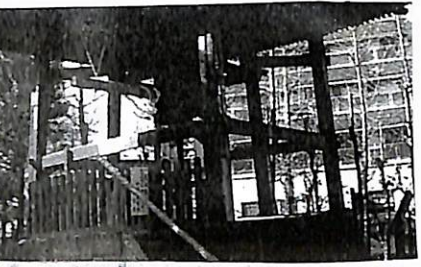
嘉永六五 ↑ 広重の江戸名所図  
戸部 ← 切通  
板元尾 仲見世 →



二尊仏

仲見世から見た仁王門と五重塔

時鐘 →



二天門

伝法院庭園 →



観音堂(本堂)

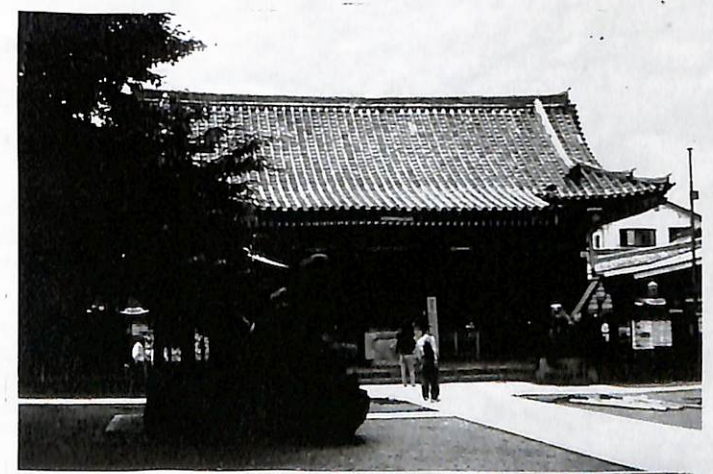


宝蔵門と五重塔

- 9) 江戸情緒たっぷり、信仰と娯楽の中心地として繁栄＝浅草寺(観音様)参り
- 7世紀はじめ、漁の網にかかった観音様を持ち帰って祀ったのがはじめ(縁起)。源頼朝が平家追討を祈願、後北条氏などの庇護を受けた。天正18年江戸入府した徳川家康が祈禱寺とし、江戸時代は庶民信仰、民衆娯楽の中心地として繁栄した
  - 雷門＝浅草寺の総門。観音様への表門。雷門と書かれた大提灯は安藤広重の「江戸名所百景」にも、高さ4m、巾3.4、重さ670キロ。現在の門は昭和35年、慶応元年以来およそ100年ぶりに鉄筋コンクリート復元。入母屋屋根。八脚門。右に風神、左に雷神
  - 仲見世＝雷門から宝蔵門まで道路両側200mにわたる商店街。江戸時代はじめ、浅草寺境内の掃除を命じられた近所の人たちが代償として出店の営業権が与えられた。土産物、おもちゃ、洋品店などが並び江戸時代創業も多い。建物は大正14年建造、昭和20年戦災焼失、修復。いつきても祭気分、外人客も多い。最後の自由時間で買物を楽しんでください
  - 伝法院＝浅草寺の本坊。建物は13代将軍家治代安永6年で後の修復や増築がある。寛永年間、小堀遠州作庭園は江戸名園の一つだが立入りはできない
  - 二尊仏(ぬれ仏)＝勢至菩薩、観音菩薩、2体の露座座像。5代将軍綱吉代貞享4年建立
  - 時の鐘(弁天山の鐘、浅草の鐘)＝2時間ごとに江戸市民に時を知らせた。元禄5年綱吉の寵臣牧野成貞が音色をよくするため黄金200枚を鑄こむ。鐘楼は戦災焼失再建、梵鐘は現存花の雲、鐘の上野か浅草か。いまも浅草寺の初詣は除夜の鐘ではじまる
  - 五重塔＝江戸時代のものは弁天山近くにあったが戦災焼失。昭和48年現在地に再建。鉄筋コンクリート塔院作り。高さ53m、京都東寺に次ぐ。最上層に仏舎利を奉安
  - 宝蔵門(山門)＝江戸時代は仁王門。戦災焼失、昭和39年再建。入母屋屋根楼門。高さ22m、間口も22m。楼上に国宝法華経を納めて宝蔵門と改めた。左にあ形、右にうん形の仁王尊像が本尊を守る。裏側の大ワラジは5m、浅草名物
  - 迷子お知らせ石標＝庶民の連絡板。正面まよいごのしるべ、左右にたずねる方、しらす方
  - お水舎＝明治36年高村光太郎作の龍神像。戦後本堂裏から移動。天井は黒絵の龍
  - 観音堂(本堂)＝慶安2年家光建造の本堂が昭和20年東京大空襲で焼失、現在のものは昭和33年鉄筋コンクリートで再建。入母屋造り。内陣、外陣、向拝、回廊からなる。高さ29m、間口34m、奥行32m。本尊観音菩薩を祀る。天井中央は川端龍子の龍、左右に天人、散華
  - 六地藏石灯籠＝鎌倉、室町時代、都内最古。形も珍しい。吾妻橋六地藏河岸から移動
  - 影向堂＝戦後、観音堂再建までの仮本堂。阿彌陀如来と生まれ年十二支の守本尊を祀る
  - 六角堂＝瓦葺き朱塗り木造六角堂。都内唯一の室町時代建造物
  - 石造階＝元和4年浅野長あきら寄進の太鼓型石橋。この年徳川秀忠が境内に東照宮を造営。上野寛永寺造営まで諸大名や旗本が威儀を正して参詣。中央は磨耗し窪みも
  - 西仏板碑＝鎌倉時代の巨大板碑。高さ2m巾50、厚み6センチ。江戸時代石枠で修復。家族子孫の後世安楽を祈願。中世の信仰を探る貴重な史蹟
  - 二天門＝元和4年秀忠が東照宮隨身門として建造。東京空襲で焼失を免れ重要文化財に。切妻屋根、八脚門。両脇2神像は神仏分離後紛失、戦後、寛永寺蔵有院勅額門から持国天、増長天を移し二天門と改称

- 10) 三社祭と新門辰五郎ゆかり＝浅草神社と被官神社
  - 浅草神社(東照宮合祀、三社権現)＝祭神は浅草寺観音像を海中から引上げたとされる開基3者と徳川家康。元和4年秀忠が創建の東照宮は寛永8年、19年に焼失、すでに家光は上野寛永寺を創建、再建せず合祀
  - 建物は慶安2年家光建造の重要文化財。変形権現造り。幣殿が拝殿と同じ高さ
  - 赤坂山王祭、神田明神祭とともに江戸3大祭として有名
  - 被官神社＝徳川慶喜とかかわった新門辰五郎の妻女が重病の折り京都伏見稲荷に祈願、快癒後勧請した。鳥居安政2年、新門辰五郎奉納銘。被官は任官、出世、花柳界、芸能関係者が信仰
- 11) 浅草花柳界、芸者さんいまだ健在＝宮戸座跡碑と浅草見番
  - 宮戸座＝浅草から江戸三座が姿を消したあとの浅草歌舞伎の拠点。大正時代が全盛。料金を安く小芝居小屋に徹したが、浅草六区の映画に押され昭和12年廃業。この先、猿若町に市村座、河原崎座跡碑。時間の都合で回りません
  - 柳通り周辺＝かつて浅草花街として繁栄。この先に新吉原。高級料亭も現存
  - 東京浅草組合見番＝芸者さんの組合。窓ガラス越しに芸者さんの名札も二階はお稽古場? 運がよければ普段着すがたの芸者さんにも
- 12) 喧騒に埋もれた不夜城もいまや昔＝浅草六区興業街
  - 浅草六区興業街＝江戸から昭和30年代にかけた日本の娯楽の殿堂。かつてこの通りを抜けるのに1時間もかかったがいまスイスイ。当時の面影はない
  - 浅草花やしき、浅草十二階
- 13) 伝法院庭園を垣間見る＝巽門と水子地藏尊
  - 伝法院巽門(裏門)＝伝法院の門はすべてあかすの門。新門辰五郎の縄張り
  - 伝法院庭園＝立入れない庭園。心字池を垣間見る
- 14) とりあえず解散＝一緒に帰られる方は30分後に雷門で
  - せっかくの浅草です。観劇、食事もよし。おみやげ買われるもよし。とりあえず解散一緒に帰られる方は30分自由行動、雷門前 時 分集合
  - 都営浅草線浅草駅から乗車(京成千葉まで690円)京成青砥、京成津田沼乗換、京成千葉駅津田沼までは特急、急行、快速などを利用してください。各駅は時間がかかり接続も不便です。津田沼～千葉は各駅電車です。千葉で徒歩2分、JR千葉駅乗換(八幡宿まで190円)八幡宿18時00分ころ着浅草から浅草橋に出て総武線利用もできますが京成利用の方がいくらか安くなります

ご案内) 第6回\*10月9日(火曜日)四谷、赤坂、江戸城外濠を歩く＝予告編をご覧ください



浅草神社  
 大正の浅草 ↑  
 六区興業街  
 ← 被官神社  
 浅草見番 →



城と史蹟を歩く会\*第5回「浜離宮から水上バスで浅草へ」\*予告編  
 平成13年9月8日(土曜日=雨天予備日11日)

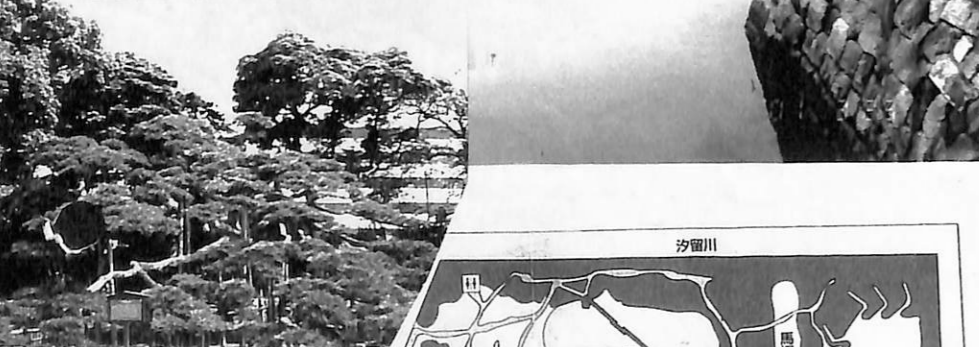
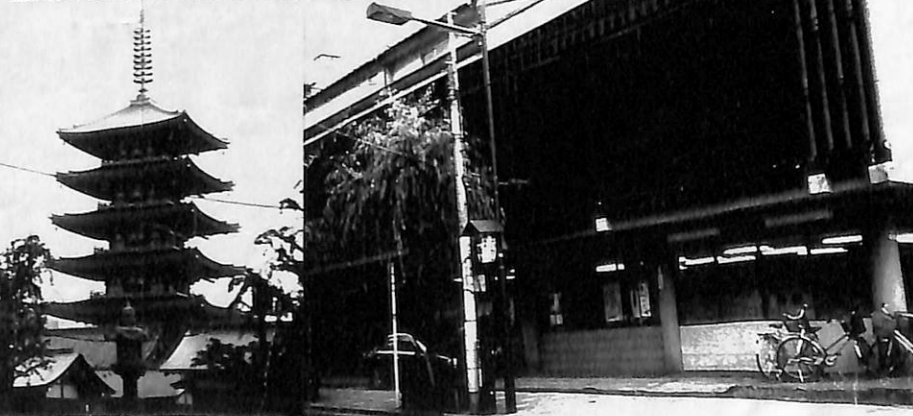


往路 =八幡宿8時10分 - 蘇我(京葉線8時29分マリンドリーム) - 東京 - 新橋  
 直行集合=JR新橋駅烏森口ゆりかもめ側改札前9時40分  
 復路 =都営浅草 - 京成線經由千葉 - 八幡宿18時ころ

- 主なコースとみどころ(65才以上の方は年齢を証明するものを持参ください)
- ①旧東海道(第一京浜)と新橋=慶長9年、江戸~京都間に53次開設。お江戸日本橋七ツ立ち、早朝通過、最初の宿場品川めざす。新橋遠望。元禄15年仇討ち本懐の赤穂浪士一行、本街道避けながら泉岳寺へ。仙台伊達邸で道明寺ホシイと仙台ミソ馳走。伊達家寝ずの釜由来
  - ②変貌する旧汐留駅=汽笛一声、新橋旧汐留駅跡。一帯は龍野脇坂、仙台伊達、保科会津邸、江川太郎左衛門大砲習練場跡、巨大遺跡発掘を終えて高層ビル工事すすむ
  - ③浜離宮恩賜庭園(入園料300円、65才以上無料)(昼食。園内に売店、食事はありません)江戸中後期の将軍家別邸・浜御殿。江戸時代を代表する回遊式潮入築山泉庭園。明治維新後皇室の離宮となり、昭和20年東京都に下賜、一般公開。城郭としての見所=4方を江戸湾と濠で囲んだ要害。大手門、砲台、海軍所、お上り場庭園=300年の松。潮入りの池。お伝橋、小の字島、中島の茶屋、築山からのながめ。鴨場歴代将軍と浜御殿=浜御殿の歴史は徳川時代中後期史そのもの。6代将軍家宣=甲府浜屋敷を大改造、綱吉の御成り。自らの将軍就任で別邸、浜御殿に改称。8代将軍吉宗=享保の改革。御殿全焼後、織物、製糖、製塩、砲工場、薬草園などに。11代将軍家斉=浜御殿を整備、御成り90回、華々しい催しつづき御殿の全盛期へ。13代将軍家定=ペリー来航で内外緊迫。江戸沿岸警備のため砲台を設置。慶応2年海軍所に。14代将軍家斉=政局は京大阪へ。行き来と休息の港に。3度目の上洛は棺、無言の帰還。15代将軍慶喜=鳥羽伏見の戦いに敗れ、海路大阪を脱出。消沈の上陸。江戸無血開城へ。
  - ④水上バス(乗船料団体560円=およそ40分)=レインボーブリッジ、臨海副都心を横目に浅草への船旅。勝鬨、永代、厩橋など12の橋をめぐりながら変貌する東京を川から楽しむ
  - ⑤浅草寺、浅草神社=古い歴史と広い境内。雷門、仲見世、観音堂のほか、みんなの知らない隠れた史蹟を探検
  - ⑥浅草花街の見番=ひっそりと
  - ⑦浅草六区興業街=いまはむかし
  - ⑧とりあえず解散、自由行動=雷門仲見世などを散策、居残りも可。帰路へ



浅草寺  
浅草見番



城と史蹟を歩く会 (市原) 42-2237 山岸弘明  
 趣旨=城と史蹟を楽しみながら歩くこと。原則全回参加。1回だけの参加もできます。交通実費+参加費毎回500円  
 行事計画=第6回(10月9日)四谷、赤坂、江戸城外濠を歩く。第7回(11月10日)鎌倉に北条時宗を歩く。第8回(12月6日)湯島、本郷を歩く



→浅草神社  
←隅田川





今回は 2期生  
が6回 休み  
13-10-9(火)  
「四谷赤坂江戸城  
外跡を歩く」

# 城と史跡を歩く会

第5回 9月8日(土曜日)  
浜離宮から水上バスで浅草へ

主要コース=旧汐留駅大名屋敷跡(遠望)、浜離宮(65才以上無料、一般300円)、水上バス(団体560円)で浅草に移動、浅草寺  
みどころ=浜離宮は将軍家別荘、江戸城外郭、鳥羽伏見の戦いに敗れた徳川慶喜が海路大阪城を脱出、将軍お上りの場も。水上バスで隅田川を上り、午後は浅草周辺を散策する。



参加31名 申込先  
山岸  
会員募集中 0436-42-2237  
ご案内山岸、撮影 国分

一銭蒸気のむかしから  
水上バス

